

ノーベル物理学賞

赤字: ウェブサイト「医学の歴史」「放射線医学の歴史」へのリンク

青字: その他の医学に関連の深い業績

受賞年	受賞者名	国籍	受賞理由
1901	レントゲン Wilhelm Conrad Röntgen	ドイツ	X線の発見
1902	ローレンツ Hendrik Antoon Lorentz ゼーマン Pieter Zeeman	オランダ オランダ	放射現象に対する磁性の影響の研究
1903	ベクレル ピエール・キュリー マリー・キュリー Antoine Henri Becquerel Pierre Curie Marie Curie	フランス フランス フランス	ベクレル線の研究
1904	レイリー Lord Rayleigh (John William Strutt)	イギリス	気体の密度の研究, アルゴンの発見
1905	レーナルト Phillip Eduard Anton von Lenard	ドイツ帝国	陰極線の研究
1906	トムソン Joseph John Thomson	イギリス	気体の電気伝導の研究
1907	マイケルソン Albert Abraham Michelson	アメリカ	マイケルソン干渉計の発明
1908	リップマン Gabriel Lippmann	フランス	光干渉による天然色写真技法の発明
1909	マルコーニ Guglielmo Marconi ブラウン Karl Ferdinand Braun	イタリア ドイツ帝国	無線通信技術の開発
1910	ファンデルワールス Johannes Diderik van der Waals	オランダ	気体および液体の状態方程式に関する研究
1911	ヴィーン Wilhelm Wien	ドイツ帝国	熱放射の法則の発見
1912	ダレーン Nils Gustaf Dalén	スウェーデン	灯台やパイの照明用ガス装置の発明
1913	オネス Heike Kamerlingh Onnes	オランダ	低温における物性の研究, 液体ヘリウムの発明
1914	ラウエ Max von Laue	ドイツ	結晶によるX線回折現象の発見
1915	ヘンリー・ブラッグ William Henry Bragg ローレンス・ブラッグ William Lawrence Bragg	イギリス イギリス	X線による結晶構造解析に関する研究[注 10]
1916	—	—	—
1917	バークラ Charles Glover Barkla	イギリス	元素の特性X線の発見
1918	プランク Max Karl Ernst Ludwig Planck	ドイツ帝国	エネルギー量子の発見
1919	シュタルク Johannes Stark	ドイツ	カナル線のドップラー効果, 電場中のスペクトル分裂の発見
1920	ギヨーム Charles Edouard Guillaume	スイス	インバー金属の発見
1921	アインシュタイン Albert Einstein	スイス	光電効果の法則の発見
1922	ボーア Niels Henrik David Bohr	デンマーク	原子構造の研究
1923	ミリカン Robert Andrews Millikan	アメリカ	電気素量, 光電効果の研究
1924	シーグバーン Karl Manne Georg Siegbahn	スウェーデン	X線分光学の研究
1925	フランク James Franck ヘルツ Gustav Ludwig Hertz	ドイツ ドイツ	電子と原子の衝突の法則の発見
1926	ペラン Jean Baptiste Perrin	フランス	物質の不連続的構造, 沈澱平衡の発見
1927	コンプトン Arthur Holly Compton ウィルソン Charles Thomson Rees Wilson	アメリカ イギリス	コンプトン効果の発見 霧箱の発明
1928	リチャードソン Owen Williams Richardson	イギリス	熱電子効果の発見
1929	ド・ブロイ Prince L.P. Raymond de Broglie	フランス	電子の波動的特性の発見
1930	ラマン Sir Chandrasekhara Venkata Raman	英領インド	光散乱の研究, ラマン効果の発見
1931	—	—	—
1932	ハイゼンベルク Werner Karl Heisenberg	ドイツ	量子力学の創始
1933	シュレディンガー Erwin Schrödinger ディラック Paul Adrien Maurice Dirac	オーストリア イギリス	原子論の新しい有効な形式の発見
1934	—	—	—
1935	チャドウィック James Chadwick	イギリス	中性子の発見
1936	ヘス Victor Franz Hess アンダーソン Carl David Anderson	オーストリア アメリカ	宇宙線の発見 陽電子の発見
1937	ディヴィソン Clinton Joseph Davisson トムソン	アメリカ	結晶による電子線回折の発見
1938	フェルミ Enrico Fermi	イタリア	熱中性子による原子核反応の発見
1939	ローレンス Ernest Orlando Lawrence	アメリカ	サイクロトロン の発明
1940	—	—	—
1941	—	—	—
1942	—	—	—
1943	シュテルン Otto Stern	アメリカ	分子線手法の開発, 陽子の磁気モーメント発見, 時期
1944	ラービ Isidor Isaac Rabi	アメリカ	原子核の磁気的性質の研究
1945	パウリ Wolfgang Pauli	アメリカ	パウリの排他律の発見
1946	ブリッジマン Percy Williams Bridgman	アメリカ	超高压装置の発明, 高压物理学の研究
1947	アップルトン Edward Victor Appleton	イギリス	上層大気の物理学的研究, アップルトン層の発見
1948	ブラケット Patrick Maynard Stuart Blackett	イギリス	ウィルソンの霧箱の発展, 原子核物理学の研究
1949	湯川秀樹 Yukawa Hideki	日本	核力の研究, 中間子の存在の予想
1950	パウエル Cecil Frank Powell	イギリス	写真による原子核崩壊過程の研究方法の開発
1951	コッククロフト John Douglas Cockcroft ウォルトン Ernest Thomas Sinton Walton	イギリス アイルランド	加速原子核粒子による原子核変換の研究
1952	ブロッホ パーセル Felix Bloch Edward Mills Purcell	スイス アメリカ	核磁気共鳴現象の発見
1953	ゼルニケ Frits (Frederik) Zernike	オランダ	位相差顕微鏡の発明
1954	ボーン Max Born ボーテ Walther Bothe	イギリス 西ドイツ	波動関数の研究 コインシデンス法による原子核反応の発見
1955	ラム Willis Eugene Lamb クッシュ Polykarp Kusch	アメリカ アメリカ	水素スペクトルの微細構造の発見 量子磁気モーメントの正確な決定法
1956	ショックリー William Bradford Shockley バーディーン John Bardeen ブラッテン Walter Houser Brattain	アメリカ アメリカ アメリカ	トランジスタ効果の発見
1957	楊振寧 Chen Ning Yang 李政道 Tsung-Dao Lee	アメリカ アメリカ	素粒子物理学, パリティの研究
1958	チェレンコフ Pavel Alekseyevich Cherenkov フランク Ilya Mikhailovich Frank タム Igor Yevgenyevich Tamm	ソ連 ソ連 ソ連	チェレンコフ効果の発見
1959	セグレ Emilio Gino Segrè チェンバレン Owen Chamberlain	アメリカ アメリカ	反陽子の発見
1960	グレーザー Donald Arthur Glaser	アメリカ	泡箱の発明
1961	ホフスタッター Robert Hofstadter メウバウワー Rudolf Ludwig Mössbauer	アメリカ 西ドイツ	原子核内の電子線散乱による核子構造の研究 ガンマ線の共鳴吸収, メスバウワー効果の発見
1962	ランダウ Lev Davidovich Landau	ソ連	凝縮系物理の理論, 液体ヘリウムの研究
1963	ウィグナー Eugene Paul Wigner ゲッパート=メイヤー Maria Goeppert-Mayer	アメリカ アメリカ	素粒子の対称性の基本原理の発見 原子核の殻構造の発見

1964	イェンゼン タウンズ パソフ プロホロフ	J. Hans D. Jensen Charles Hard Townes Nikolay Gennadiyevich Basov Aleksandr Mikhailovich Prokhorov	西ドイツ アメリカ ソ連 ソ連	量子エレクトロニクスの基礎研究, メーザー・レーザーの研究
1965	朝永振一郎 シュウィンガー ファインマン	Tomonaga Shinichirou Julian Schwinger Richard P. Feynman	日本 アメリカ アメリカ	量子電磁気学, 素粒子物理学の諸研究
1966	カストレル	Alfred Kastler	フランス	原子のRF波共鳴研究のための光学的手法の発見
1967	ベーテ	Hans Albrecht Bethe	アメリカ	原子核反応理論, 星の内部におけるエネルギー生成の研究
1968	アルヴァレス	Luis Walter Alvarez	アメリカ	素粒子物理学の研究, 水素泡箱による多数の共鳴状態の発見
1969	ゲルマン	Murray Gell-Mann	アメリカ	素粒子の分類, 相互作用に関する研究
1970	アルヴェーン ネール	Hannes Olof Gösta Alfvén Louis Eugène Félix Néel	スウェーデン フランス	プラズマ物理学, 電磁流体力学の研究 反強磁性, フェリ磁性の発見
1971	ガボール (デーネシュ)	Dénes Gábor	イギリス	ホログラフィーの発明
1972	バーディーン クーパー シュリーファー	John Bardeen Leon Neil Cooper John Robert Schrieffer	アメリカ アメリカ アメリカ	超電導理論(BCS理論)の研究
1973	江崎玲於奈 ジェーバー ジョセフソン	Ezaki Reona Ivar Giaever Brian David Josephson	日本 アメリカ イギリス	半導体, 超伝導体内のトンネル効果の発見 ジョセフソン効果の理論的予測
1974	ライル ヒューイッシュ	Martin Ryle Antony Hewish	イギリス イギリス	電波天文学の研究, 開口合成技術の発明 電波天文学の研究, パルサーの発見
1975	ボーア モッテルソン レインウォーター	Aage Niels Bohr Ben Roy Mottelson Leo James Rainwater	デンマーク デンマーク アメリカ	核子の集団運動と独立粒子運動の関係の発見
1976	リヒター ティン	Burton Richter Samuel Chao Chung Ting	アメリカ アメリカ	新種の重い素粒子の発見
1977	アンダーソン モット ヴレック	Philip Warren Anderson Nevill Francis Mott John Hasbrouck Van Vleck	アメリカ イギリス アメリカ	磁性体と無秩序系電子構造の研究
1978	カピッツァ ベンジヤス ウィルソン	Pyotr Leonidovich Kapitsa Arno Allan Penzias Robert Woodrow Wilson	ソ連 アメリカ アメリカ	低温物理学における基礎的発明 宇宙マイクロ波背景放射の発見
1979	グラショー アブドゥッサラーム ワインバーグ	Sheldon Lee Glashow Abdus Salam Steven Weinberg	アメリカ パキスタン アメリカ	素粒子間の弱い相互作用と電磁相互作用の統一理論
1980	クローニン フィッチ	James Cronin Val Logsdon Fitch	アメリカ アメリカ	中性K中間子崩壊における基礎的な対称性の破れの発見
1981	ブルームバーゲン ショーロー シーグバーン	Nicolaas Bloembergen Arthur Leonard Schawlow Kai Manne Börje Siegbahn	アメリカ アメリカ スウェーデン	レーザー分光学的研究 高分解能光電子分光法の発明
1982	ウィルソン	Kenneth G. Wilson	アメリカ	相転移に関連した臨界現象の研究
1983	チャンドラセカール ファウラー	Subrahmanyan Chandrasekhar William Alfred Fowler	アメリカ アメリカ	星の構造, 進化の物理学的過程の研究 宇宙の化学元素の生成に重要な原子核反応の研究
1984	ルビア ファンデルメール	Carlo Rubbia Simon van der Meer	イタリア オランダ	W粒子およびZ粒子の発見を導いた巨大プロジェクトへの貢献
1985	クリッツィング	Klaus von Klitzing	西ドイツ	量子ホール効果の発見
1986	ルスカ ビニツヒ ローラー	Ernst Ruska Gerd Binnig Heinrich Rohrer	西ドイツ 西ドイツ スイス	走査型トンネル電子顕微鏡の発明
1987	ベドノルツ ミュラー	J. Georg Bednorz Karl Alexander Müller	西ドイツ スイス	セラミックスの超伝導体の発見
1988	レーダーマン シュタインバーガー	Leon M. Lederman Jack Steinberger	アメリカ アメリカ	ニュートリノビーム法, ミューニュートリノの発見, レプトンの二重構造の実証
1989	ラムゼー デーメルト パウル	Norman F. Ramsey Hans G. Dehmelt Wolfgang Paul	アメリカ アメリカ 西ドイツ	分離振動法の開発, 水素メーザー, 原子時計への応用 イオントラップ法の発明
1990	フリードマン ケンドール テイラー	Jerome I. Friedman Henry W. Kendall Richard E. Taylor	アメリカ アメリカ カナダ	電子の深非弾性散乱に関する研究
1991	ドゥジェンヌ	Pierre-Gilles de Gennes	フランス	単純な系の秩序現象の研究手法がより複雑な物質, 特に液晶や高分子の研究にも一般化できることの発見
1992	シャルパク	Georges Charpak	フランス	粒子検知器, 多線式比例計数管の発明
1993	ハルス テイラー	Russell A. Hulse Joseph Hooton Taylor, Jr.	アメリカ アメリカ	新型連星パルサーの発見
1994	ブロックハウス シャル	Bertram N. Brockhouse Clifford G. Shull	カナダ アメリカ	中性子分光法の発明
1995	パール ライネス	Martin L. Perl Frederick Reines	アメリカ アメリカ	レプトン物理学の研究, タウ粒子の発見 レプトン物理学の研究, ニュートリノの検出
1996	リー オシェロフ リチャードソン	David M. Lee Douglas D. Osheroff Robert C. Richardson	アメリカ アメリカ アメリカ	ヘリウム-3の超流動の発見
1997	チュー コーエン=タヌージ フィリップス	Steven Chu Claude Cohen-Tannoudji William D. Phillips	アメリカ フランス アメリカ	レーザー光で原子を冷却, 捕捉する方法の開発
1998	ラフリン シュテルマー ツイ	Robert B. Laughlin Horst L. Störmer Daniel C. Tsui	アメリカ ドイツ アメリカ	分数電荷の励起状態を持つ新たな量子流体の形態の発見
1999	トホーフ フェルトマン	Gerardus 't Hooft Martinus J. G. Veltman	オランダ オランダ	電弱相互作用の量子構造の解明
2000	アルフォーロフ クレーマー	Zhores I. Alferov Herbert Kroemer	ロシア ドイツ	半導体ヘテロ構造の開発
2001	コーネル ケターレ ワイマン	Eric A. Cornell Wolfgang Ketterle Carl E. Wieman	アメリカ ドイツ アメリカ	アルカリ金属原子のボース=アインシュタイン凝縮
2002	デイビス 小柴昌俊 ジャコーニ	Raymond Davis Jr. Koshiba Masatoshi Riccardo Giacconi	アメリカ 日本 アメリカ	宇宙ニュートリノの検出 宇宙X線源の発見を導いた天体物理学への貢献
2003	アブリコソフ ギンツブルク レゲット	Alexei A. Abrikosov Vitaly L. Ginzburg Anthony J. Leggett	アメリカ ロシア イギリス	超電導, 超流動の研究

2004	グロス ポリツァー ウィルチェック	David J. Gross H. David Politzer Frank Wilczek	アメリカ アメリカ アメリカ	強い相互作用における漸近的自由性の発見
2005	グラウバー ホール ヘンシュ	Roy J. Glauber Roy J. Glauber Theodor W. Hänsch	アメリカ アメリカ ドイツ	光学コヒーレンスの量子論の研究 光周波数コム技術, レーザーによる精密分光法の開発
2006	マザー スムート	John C. Mather George F. Smoot	アメリカ アメリカ	宇宙マイクロ波背景放射が黒体放射の形をとることの発見
2007	フェール グリューンベルク	Albert Fert Peter Grünberg	フランス ドイツ	巨大磁気抵抗の発見
2008	南部陽一郎 小林誠 益川敏英	Nambu Yoichiro Kobayashi Makoto Masukawa Toshihide	アメリカ 日本 日本	素粒子の自発的対称性の破れの機構の発見 素粒子の対称性の破れの起源の発見
2009	カオ ボイル スミス	Charles K. Kao Willard Boyle George E. Smith	イギリス アメリカ アメリカ	光通信を目的としたファイバー内光伝達の研究 CCDセンサーの発明
2010	ガйм ノボセロフ	Andre Geim Konstantin Novoselov	オランダ ロシア	二次元物質グラフェンの研究
2011	パールマッター シュミット リース	Saul Perlmutter Brian Schmidt Adam Riess	アメリカ オーストラリア アメリカ	遠方の超新星の観測による宇宙の加速膨張の発見
2012	アロシュ ワインランド	Serge Haroche David J. Wineland	フランス アメリカ	個別の量子系に対する計測, 制御を可能にする実験的手法の発明
2013	アンブレール ヒッグス	François Englert Peter Higgs	ベルギー イギリス	ヒッグス粒子による質量の起源を説明するメカニズムの発見
2014	赤崎勇 天野浩 中村修二	Akasaki Isamu Amano Hiroshi Nakamura Shuji	日本 日本 アメリカ	青色発光ダイオードの発明
2015	梶田隆章 マクドナルド	Kajita Takaaki Arthur B. McDonald	日本 カナダ	ニュートリノ振動の発見
2016	サウレス ホールデン コステリッツ	David J. Thouless Duncan Haldane Michael Kosterlitz	アメリカ イギリス イギリス	物質のトポロジカル相とトポロジカル相転移の発見
2017	ワイス ソーン	Rainer Weiss Kip Thorne	アメリカ アメリカ	LIGO検出器および重力波の観測への貢献
2018	アシュキン ムル ストリックランド	Arthur Ashkin Gérard Mourou Donna Strickland	アメリカ フランス カナダ	光ピンセットの開発, 生体システムへの応用 超高出力, 超短パルスレーザーの生成法の発明
2019	ピーブルス マイヨール ケロー	Jim Peebles Michel Mayor Didier Queloz	アメリカ スイス スイス	物理宇宙論における理論的発見 太陽型恒星を周回する太陽系外惑星の発見
2020	ペンローズ ゲンツェル ゲズ	Roger Penrose Reinhard Genzel Andrea M. Ghez	イギリス ドイツ アメリカ	ブラックホールの形成が一般相対性理論の裏付けであることの発見 銀河系の中心にある超大質量コンパクト天体の発見
2021	真鍋俊郎 ハッセルマン パリージ	Manabe Syukuro Klaus Hasselmann Giorgio Parisi	アメリカ ドイツ イタリア	地球の気候の物理的モデリング 原子から惑星のスケールまでの物理システムの 無秩序と変動の相互作用の発見
2022	アスペ クラウザー ツァイリンガー	Alain Aspect John F. Clauser Anton Zeilinger	フランス アメリカ オーストリア	量子もつれ状態の光子を用いた実験によるベル不等式の破れの実証